

常なる磐

つねなる いわ season II

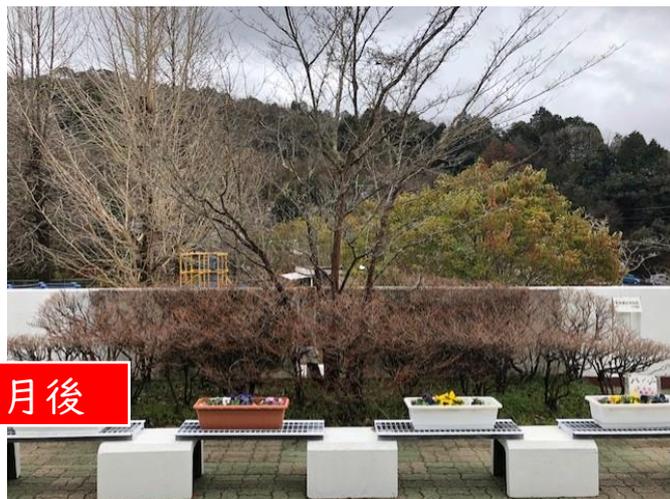
令和3年4月16日(金)
その2

◇ 玄関前のドウダンツツジ

正面玄関前の「ドウダンツツジ」は本校の自慢の一つだ。真紅の葉を携える晩秋もよいが、現在の新芽を芽吹く陽春期も、晩秋に負けぬほどの存在感を示す。



◆令和3年4月撮影



◆令和3年2月撮影

2か月後

4月に入ってから続く温暖な気候が、ドウダンツツジを目覚めさせた。あっという間の、そして一斉の芽吹きにより、さみしかった玄関前が若草色に彩られた。

プランターのパンジーもぐんと大きくなり、多色の花が若葉を一層引き立てている。そう、通常なら花が主役なのだが、本校は樹木が主役なのである。

ドウダンツツジは、若葉期を経ると、そこから熟成期に入る。若草色の幼葉は、夏季に向けて葉の色を深くし、同時に葉に厚みをもたせるように生長していく。

そして秋も深まり、多くの樹木が葉を落として冬を迎える頃、ドウダンツツジは、葉を真紅に染める。

これが、一番の見頃、主役…と、思っていたが、そうではないことに気付いた。



若葉の隙間に、ちらほら白いものが…よく見ると、あちらにも、こちらにも。



これが【ドウダンツツジの花】である。

花の大きさは5mmぐらい。鈴生りに釣り下がり、下向きに咲く白い花。
大きさといい、形状といい、色調といい、まるで「スズラン」の花のようだ。

「ドウダンツツジ」は、漢字で表記すると【灯台躑躅（ツツジ）】。推察するに、咲き誇る白い花灯台の灯りに見立てたのではなからうか。

中国名は【満点星】。やはり、花から名づけられたと解釈するのが妥当だろう。

そう。「ドウダンツツジ」の黄金期は、紅葉の晩秋ではない。若葉の芽吹きと時を同じくして花を咲かせる、まさに今。【春】なのである。

ちなみに、「ドウダンツツジは毒がある」とのいわれがあるが、これは間違いで無毒。猛毒を備えるスズランと花の形が似ていることから、同列に扱われたのかもしれない。

似て非なるもの。安心していただきたい。何ととっても満点の星ですから。